

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

経営者が備えるべき二つの強さ 伊與田 覺 (論語普及会学監)

1. 人の上に立つ者には強さが必要です。ただしこの強さには二つの種類があります。「剛毅朴訥仁に近し」といいますが、この「剛毅」という文字がそれを示しています。剛は、表面的な強さ、外に表れた強さを意味します。毅は、内に潜んだ強さ、忍ぶ強さをいいます。この忍ぶ強さというものが指導者には求められると思います。
2. 清代末期の政治家・曾國藩は、四耐四不訣という言葉を残しています。
「冷に耐え、苦に耐え、煩に耐え、閑に耐え、
激せず、躁がず、競わず、随わず、もって大事を成すべし」
冷に耐える。冷は冷ややかな目を表わし、冷たい仕打ちや誤解に耐えるということです。苦に耐えるは、文字通り苦しいことに耐えること。人は様々な苦を体験します。煩に耐えるは、忙しさや煩わしいことに耐えること。閑に耐えるは、暇に耐えることですが、経営者であれば仕事のない時期をどう過ごすか。
3. これらのことに耐え、つまらないことに腹を立てず、ものごとが上手く運んでも調子に乗らず、よけいな競争をせず、かといって何でも言いなりなつてはいけないという戒めです。

(参考:「致知」2010年2月号)

ワンポイント経営アドバイス

景気の変動に関係なく押さえておくべきこと
(P. F. ドラッカー)

1. 景気循環から目を離してはならない。しかし、景気循環に焦点を合わせている限り、なにもできなくなる。したがって問題は、経済情勢がいかなる段階にあるかにかかわりなく、事業上の決定を行なうために押さえておくべきことは何かである。押さえておくべきこと、行なうべきことは4つある。第一は、過去の経験から最悪の状況を想定しておくことである。第二は、すでに起こった変化がやがて経済に及ぼすであろう影響を想定しておくことである。
2. 第三は、あらゆる現象が一貫した傾向の下に動くことから、そのすう勢を把握しておくことである。第四に、あらゆる決定において、適用と変更のための道を用意しておくことである。すなわち、明日の決定と行動のために、明日の経営管理者を今日育成しておくことである。

(参考:「週刊ダイヤモンド」:2009年11月21日号)

人事・労務について

働きやすい会社には人材が集まる

佐々木 常夫 (東レ経営研究所社長)

1. ワークライフバランスを一言で説明するならば、「個人も会社もともに成長する生き方、働き方」のことである。まず何よりもワークライフバランスは、社員の満足度を高めることにつながる。例えば、仕事を定時に終えて帰ると、本を読んだり、友人と話をしたり、そして最も大事な家族とのコミュニケーションがとれる。こうしたことが、社員1人ひとりの「頑張る気持ち」につながる。
2. 残業続きだと心身ともに疲れ、モチベーション高く仕事を継続することができず、「頑張る気持ち」もなえる。一方、定時に帰ることができれば身体の調子もよく、体調がよければ、仕事のスピードも上がりいいアイデアも出る。つまり、ワークライフバランスによって時間当たりの生産性が上るといふメリットがある。そのようなワークライフバランスを実践している会社には、「働きやすい会社」として世に知られ新卒・中途を問わず優秀な人材が集まってくる。

(参考:「週刊東洋経済」2009年11月14日号)

古典に学ぶ

一時一事

「今、一時一事、の工夫について考えてみるに、われわれが何か事をなすに当たって、現在自分のなすべき仕事のうち、何が一番大切であるか、一体何から片付けて行ったらよいかということ、まず見定めねばならぬでしょう。そしてその判断は、特別の場合を除いては、大体誰にもはっきりと分かるものです」

(参考:森 信三「修身教授録抄」:致知出版社)